

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

2015年度前期 開講講座

5月9日（土）午後1時～  
閣議決定は違憲・無効である  
——安全保障関連法の成立を許すな！

報告＝飯島滋明（名古屋学院大学准教授／戦争をさせない1000人委員会事務局次長）  
進行＝山口正紀（ジャーナリスト／「人権と報道」連絡会・世話人）

1、安倍壊憲政権との対決

違憲・無効な集団的自衛権行使容認の閣議決定をうけ、安倍政権は国会内では多数与党を背景に安全保障関連法整備を強行している。いっぽう、反動的な政策に反対する論調・運動には、強制的に対応している。「慰安婦」報道をめぐる「朝日」攻撃を通してのマスコミへの介入、沖縄の反基地運動への暴力的な弾圧など、政権の本質を露骨に示している。この状況をどう突破していくべきか、参加者のみなさんとともに考えたい。

- ① 5月20日（水）官邸・マスコミ一体となった情報操作——中東での邦人人質事件・「朝日」バッシングを中心に 講師＝山口正紀（ジャーナリスト／「人権と報道」連絡会・世話人）
- ② 5月23日（土）『泥の花——名護市民・辺野古の記録』上映と討論 講師＝外間三枝子（沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック共同代表）
- ③ 6月6日（土）既成事実化する準戦時体制——あからさまな、または仮面をつけた軍事化政策 講師＝吉沢弘志（埼玉大学教員）
- ④ 7月4日（土）朝鮮半島情勢と日本——一年中、恒常化する日米韓軍事演習のすさまじさ 講師＝李東埈（ジャーナリスト）

2、反ファシズム戦争勝利70周年と現代史の教訓

第二次世界戦争は第一次と同質の帝国主義戦争ではなかった。世界人民は英仏らの反独帝国主義戦争を反侵略・反ファシズムの解放戦争に転化しようとした。ナチスによるソ連邦への侵略戦争は、反撃に転じたソ連赤軍・人民の犠牲を通じて主導権を反ファシズム陣営にもたらし、反ファシズム戦争の最終的な勝利を導いたが、70周年のいま、改めて現代史の教訓から学ぶ。

- ① 5月16日（土）抗日闘争勝利70周年にあたって——中国革命の意義、そして現在を考える 講師＝村田忠禧（横浜国立大学名誉教授）
- ② 6月27日（土）日本帝国主義の現段階——対米関係を軸に、戦後70年の総括を試みる 講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
- ③ 7月25日（土）戦後70年はわれわれに何を問いかけるか 講師＝浅井基文（国際問題研究者）
- ④ 9月12日（土）『天皇実録』を斬る——天皇の戦争責任を回避する新たな試み 講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）

3、階級的労働運動再建の道すじを考える

護憲・憲法改悪阻止の闘いの中心軸に労働組合が見えなくなって久しい。それは、運動の右傾化・弱体化によって労働組合が労働者の賃金、雇用、そして生命と健康すら集団的・組織的に守りきれなくなったことと表裏一体だ。労働運動の現状を再確認し、原則的に闘う労組活動家から学び連携しつつ、階級的労働運動再建の道すじをとらえよう。

- ① 5月27日（水）日経連「新時代の日本的経営」発表から20年——労働分野の規制緩和、格差の拡大はどこまで進んだか 講師＝宮里邦雄（日本労働弁護団）
- ② 6月3日（水）日本労働運動の現状をどう乗り越えるか——全労協議長、おおいに語る 講師＝金澤 壽（全国労働組合連絡協議会議長）
- ③ 9月19日（土）郵政の労働現場から 2015年秋の日本郵政・東証一部上場を前に——産業別労働組合運動の強化をどう進めるか 報告＝郵政の現場労働者からの報告

<HOWSゼミナール>

わたしの労働運動論（全7回 2回目以降の日程は追って連絡します）——50年間、闘いの現場で考えたこと 講師＝二瓶久勝（元国鉄闘争共闘会議 議長）

現在の労働組合は組織率の低下（17.7%）、非正規労働者への取り組みのなさ、そして社会性の喪失……戦後最大の危機に直面している。どこに突破口を見いだせるのか難問である。しかし自らの労働現場でそれをつかまなければ労働運動の再生はない。わたしの生きてきた労働運動の経験を生かして、将来への可能性を少しでも共有できれば本望である。

- (1) 労働組合の原則（2015年8月2日（日））〈夏季セミナー〉
  - ① 資本と闘う組織
  - ② 組合民主主義の貫徹
  - ③ 集団的労使関係（多数派）を持つ組合——組合の力の最大限を発揮
  - ④ 社会性、地域性をもつ組織
  - ⑤ 争議行為についての労使協定は締結しない

- 〈以降は後期から〉
  - \*各講座には当時のわたしが雑誌に投稿した文章、そしてオリジン電気労働組合での活動の資料を参考として提示する。
  - (2) 職場闘争と賃金闘争について
  - (3) ストライキの意義と戦術について
  - (4) 組合の社会性と地域運動について
  - (5) 組合運動の再生の糸口はどこにあるのか——非正規労働者問題の闘い方
  - (6) 国鉄闘争の総括と教訓
  - (7) 労働講座の総括——何を学び、問題意識はどこにあるのか（参加者の討論）

4、社会主義——その過去・現在・未来

社会主義世界体制が存在しなくなったいま、「左翼」陣営の中でも「社会主義は終わった」との論が幅をきかせている。資本主義の現状を具体的に見れば見るほどその未来はない。今回は社会主義を「身近な問題から」「闘っている社会主義者の現状から」「現存した社会主義から」考えていく。

- ① 7月8日（水）キューバと米国の国交正常化の動きをめぐって——社会主義を堅持しつつ経済を発展させる道を考える 講師＝沖江和博（国際政治研究）
- ② 8月1日（土）「社会主義」をどうやって獲得していくか（夏季セミナー）——身近な問題で考える社会主義Q&A ※ 若手活動家によるディスカッション アドバイザー＝山下勇男（社会主義理論研究）
- ③ 8月26日（水）20世紀に現存した社会主義は、何を實現していたのか——第三世界の諸国民を支援し、平和構築の道を開いたソ連・東欧諸国 講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）

5、HOWS文化講座

- ① 5月30日（土）藤田嗣治の戦争画をどう見るか——「ドキュメント戦後美術の断面」を題材に 講師＝笹木繁男（美術ドキュメンタリスト）
- ② 7月18日（土）いまいかに『原爆の図』を考えるか——丸木美術館を訪ねて 〈フィールドワーク〉 講師＝平松利昭（画家）
- ③ 8月1日（土）ディスカッション「運動族」をめざして〈夏季セミナー〉——武井昭夫著『創造としての革命』を手がかりに 報告＝田代ゆき／田中芳秀／伊藤龍哉、他
- ④ 9月5日（土）「無言館」〈長野県上田市〉を訪ねて 〈フィールドワーク〉 案内＝立野正裕（明治大学教授） 無言館は、第二次世界大戦中、志半ばで戦場に散った画学生たちの残した絵画や作品、イーゼルなどの愛用品を収蔵、展示している。 ※ 詳細は、別途お知らせします。

6、日本の短編小説を読む

- 講師＝立野正裕（明治大学教授）（各回とも午後7時～）
- アジア太平洋戦争と敗戦後のなかで、日本の作家たちはどのように生活し、どのように現実と向き合い、どのようにそれを文学として表現しようとしたであろうか。敗戦後70年を機に、戦中および戦後文学の秀作をとらえてじっくりと考えてみたい。前期はまず次の四作品を取り上げる。
- ① 5月12日（火）椎名麟三『深夜の酒宴』
- ② 6月16日（火）野間宏『暗い絵』
- ③ 7月28日（火）宮本百合子『杉垣』
- ④ 9月29日（火）佐多稲子『泡沫の記録』

テキストは各種日本文学全集および文庫に収録されています。

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

- ① 戦後文学ゼミ チューター＝山口直孝、松岡慶一 2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨入、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。

- ② 群読ゼミ 世話役＝小松厚子 台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。 ●これまでの制作・作品には、次のものがあります。 1) いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連携 2) 私たちの戦争案内——急速に進行する戦争体制づくりに抗して 3) 戦争を止めよう！——あなたも・日常から・世界の女性と共に 4) 戦争を止めよう！ II 5) いま、私たちの労働現場から II 6) 私たちはどう社会をつくりたいのか——憲法改悪は誰のため？ 7) 憲法改悪反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い 8) 共闘こそ！——壊憲を許すな 9) 先に起つのは君だ——戦争・失業・貧困をなくそう 10) 憲法と原発——目を覚ませ！ 未来の世代のために 11) 不安だらけの未来はいらない 12) 利益優先の社会はいらない——闘おう！ 未来のために 13) さし迫る壊憲の危機——知らなかったではすまされません 14) すでに始まっている戦争への道——私たちの戦争案内 II

7、この人にきく

- ① 6月13日（土）歴史の大道に立って——イスラム世界の動きをどう見るか 講師＝板垣雄三（東京大学名誉教授）
- ② 8月2日（日）対談 日朝人民の真の連帯をめざして——歴史的・階級的視点めきに協働はありえない〈夏季セミナー〉 対談＝崔 権一（大阪朝鮮高級学校教員） 土松克典（韓国労働運動研究）
- ③ 9月26日（土）オリンピック・ファシズムがやってきた——教育現場でこれとどう闘うか 講師＝谷口源太郎（スポーツ・ジャーナリスト） 聞き手＝藤原 晃（神奈川高教組）

HOWS講座カレンダー 2015年度前期（5月～9月）

5月9日（土）開講講座 閣議決定は違憲・無効である——安全保障関連法の成立を許すな！ 報告＝飯島滋明（名古屋学院大学准教授／戦争をさせない1000人委員会事務局次長） 進行＝山口正紀（ジャーナリスト／「人権と報道」連絡会・世話人）
5月12日（火）日本の短編小説を読む 椎名麟三『深夜の酒宴』
5月16日（土）抗日闘争勝利70周年にあたって——中国革命の意義、そして現在を考える 講師＝村田忠禧（横浜国立大学名誉教授）
5月20日（水）官邸・マスコミ一体となった情報操作——中東での邦人人質事件・「朝日」バッシングを中心に 講師＝山口正紀（ジャーナリスト／「人権と報道」連絡会・世話人）
5月23日（土）『泥の花——名護市民・辺野古の記録』上映と討論 講師＝外間三枝子（沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック共同代表）
5月27日（水）日経連「新時代の日本的経営」発表から20年——労働分野の規制緩和、格差の拡大はどこまで進んだか 講師＝宮里邦雄（日本労働弁護団）
5月30日（土）藤田嗣治の戦争画をどう見るか——「ドキュメント戦後美術の断面」を題材に 講師＝笹木繁男（美術ドキュメンタリスト）
6月3日（水）日本労働運動の現状をどう乗り越えるか——全労協議長、おおいに語る 講師＝金澤 壽（全国労働組合連絡協議会議長）
6月6日（土）既成事実化する準戦時体制——あからさまな、または仮面をつけた軍事化政策 講師＝吉沢弘志（埼玉大学教員）
6月13日（土）歴史の大道に立って——イスラム世界の動きをどう見るか 講師＝板垣雄三（東京大学名誉教授）
6月16日（火）日本の短編小説を読む 野間宏『暗い絵』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
6月27日（土）日本帝国主義の現段階——対米関係を軸に、戦後70年の総括を試みる 講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
7月4日（土）朝鮮半島情勢と日本——一年中、恒常化する日米韓軍事演習のすさまじさ 講師＝李東埈（ジャーナリスト）
7月8日（水）キューバと米国の国交正常化の動きをめぐって——社会主義を堅持しつつ経済を発展させる道を考える 講師＝沖江和博（国際政治研究）
7月18日（土）いまいかに『原爆の図』を考えるか——丸木美術館を訪ねて 〈フィールドワーク〉 講師＝平松利昭（画家）
7月25日（土）戦後70年はわれわれに何を問いかけるか 講師＝浅井基文（国際問題研究者）
7月28日（火）日本の短編小説を読む 宮本百合子『杉垣』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
8月1日（土）ディスカッション「運動族」をめざして——武井昭夫著『創造としての革命』を手がかりに 報告＝田代ゆき／田中芳秀／伊藤龍哉、他 〈夏季セミナー〉
8月1日（土）「社会主義」をどうやって獲得していくか——身近な問題で考える社会主義Q&A ※ 若手活動家によるディスカッション アドバイザー＝山下勇男（社会主義理論研究） 〈夏季セミナー〉
8月2日（日）対談 日朝人民の真の連帯をめざして——歴史的・階級的視点めきに協働はありえない 〈夏季セミナー〉 対談＝崔 権一（大阪朝鮮高級学校教員）／土松克典（韓国労働運動研究）
8月2日（日）わたしの労働運動論——50年間、闘いの現場で考えたこと (I) 労働組合の原則 〈夏季セミナー〉 講師＝二瓶久勝（国鉄闘争を継承する会代表）（全6回 2回目以降は後期から）
8月26日（水）20世紀に現存した社会主義は、何を實現していたのか——第三世界の諸国民を支援し、平和構築の道を開いたソ連・東欧諸国 講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）
9月5日（土）「無言館」〈長野県上田市〉を訪ねて 〈フィールドワーク〉 案内＝立野正裕（明治大学教授） ※ 詳細は、別途お知らせします。
9月12日（土）『天皇実録』を斬る——天皇の戦争責任を回避する新たな試み 講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
9月19日（土）郵政の労働現場から 2015年秋の日本郵政・東証一部上場を前に——産業別労働組合運動の強化をどう進めるか 報告＝郵政の現場労働者からの報告
9月26日（土）オリンピック・ファシズムがやってきた——教育現場でこれとどう闘うか 講師＝谷口源太郎（スポーツ・ジャーナリスト）／聞き手＝藤原 晃（神奈川高教組）
9月29日（火）日本の短編小説を読む 佐多稲子『泡沫の記録』 講師＝立野正裕（明治大学教授）

《2015年度前期募集要項》

- 定員 本科生40名（4月20日（月）より募集）
- 全講座27回（各週1～2回程度）
- 本科生は、すべての講座を受講できます。その他、交流を深めつつ数講座を集中して学ぶ夏季合宿（前期）や、懇親会などの企画があります。
- ◎聴講生20名 シリウスを問わず、自由に講座が選べる12枚綴りの聴講チケットがあります。
- 費用 ◎本科生 入学金…1万円（次期以降は不要） 受講料…前期：3万円、後期：3万円 ●前期5月、後期11月の開講時までそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…15,000円 ●聴講料納入と引き換えに12枚綴りの聴講チケットをお渡しします。 ●1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。 ●2015年度前期の聴講チケットは、2015年度後期にも使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円（各講座1回につき） ●本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただけます。
- 申込方法 ●所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項 ●HOWSゼミナールについては、会計が異なります。 ●講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。